九州における野生いのしし豚熱対策に関する 今後の対応方針

1. 九州全県において、地元の猟友会や狩猟者等との協力関係を構築しつつ、野生いのししの捕獲及びサーベイランスの強化を継続し、豚熱経口ワクチン散布推奨地域においては、豚熱の感染確認状況に応じた経口ワクチン散布を実施する
2. 野生いのししでの豚熱陽性個体未確認県において、経口ワクチン散布体制の構築、散布計画の策定を進めるとともに、陽性が確認された場合には直ちに実施できるよう体制を確認する
3. 登山者、キャンパーや山林内で作業する者等に向けて豚熱の感染拡大・まん延防止を周知・徹底する。また、県によるサーベイランスや経口ワクチン散布を含む対策状況を、県だけでなく市町村からも広く情報発信し、対策の重要性、必要性の認知度向上に努める
4. 居住県外での狩猟について自粛に努め、もし居住県外での狩猟を行う場合には、獲物及びこれと接触した物等を持ち帰って放置しない等衛生対策を徹底することについて関係者への協力を要請し、狩猟による感染拡大リスクの低減に努める
5. 養豚場においては、①異常豚の早期発見、早期通報、②消毒や野生いのしし侵入防止対策等の飼養衛生管理の再点検、③適時・適切なワクチン接種、④埋却地の確保、⑤野生いのししの接近を防ぐための防護柵外周の除草等、といった飼養豚対策を徹底する